特別企画

全がん協生存率データ ~KapWebからわかること~

中村 洋子

千葉県がんセンター研究所　がん予防センター

全国がんセンター協議会(全がん協)では2007年、施設別に5年生存率をインターネットのホームページで公表しました(全がん協生存率調査 http://www.zengankyo.ncc.go.-jp/etc/)。公表のプロセスの中で、各施設から提出されるデータの正確さが目に見えて向上する一方、都道府県のがん診療の中核である全がん協施設の治療成績の差はどこから出てくるのかという問題が提起されました。それは、治療設備や医療技術の差である以前に、その施設の患者さんにしめる高齢者の比率、心臓病や糖尿病、腎不全などの病気を持つ人の比率など、患者さんのさまざまな状態が大きく関わっていることが推測されました。そして、それらのデータを合わせた先に、治療方法、経過観察の方法、医療技術などの真の差が明らかになってくると考えられました。しかし、私たちが提供する統計は、まだこのような医療の実態を明らかにするレベルには達していません。しかし、この生存率統計は、不完全であるにもかかわらず、多くの貴重な情報を私たちに与えてくれます。治療を開始する患者さんには将来の見通しを、治療後の患者さんには再発や経過についての情報を提供してくれます。

国立がん研究センター研究開発費に基づく研究班(三上ら)は、2012年10月、誰もが簡単に生存率を計算でき、グラフを描画する生存率解析システムKapWebをWeb上に公開しました。自身が求めたいと思ういくつかの選択項目、例えば、診断年、部位、臨床病期、年齢、性別、組織診断などを選択し、↗計算ボタンをクリックするだけで、生存率値やグラフを求めることができます(図1)。

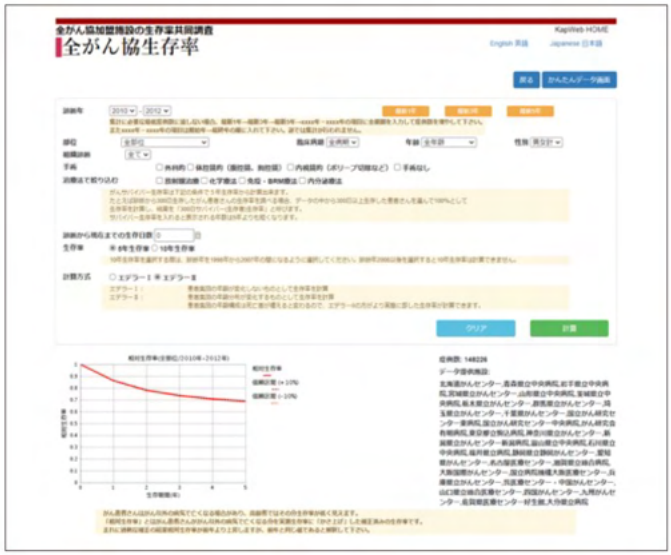

図1

現在、男性では3人に1人、女性では4人に1人ががんで亡くなっていますが、がんにかかった人の68%以上が5年以上生存しています。がんが助かる病気となったこの時代に、私たちは、がんの治療や救命の質などその後の経過を評価する統計が求められると考えています。生存率は必ずしも余命の宣告ではなく、多くのがんでは生存日数が延びるとともにその後生存する確率は高まり、また医療の進歩により診断時期が最近に近づくほど治療成績も向上しています。KapWebでは、診断から一定日数生存した患者さんに向けた「がんサバイバー生存率※」を計算できるようになっております。この生存率の伸びを見ながらがんに向きあってほしいという意味合いを込めております。

また 2016年には、10年生存率を算出できる情報を収集・集計し、全がん協ホームページおよびKapWeb上で公開しました。わが国においてこの規模でがんの10年相対生存率が公表されるのは初めてで、本集計により長期的ながん種別予後の傾向が示されました。

現在、世界中がコロナ禍になっている中、コロナウイルスへの感染を心配し、検診や病院への受診を躊躇したり、また医療現場もコロナウイルス感染者の対応に追われ、従来の患者さんのケアが遅れる状況になっているかと思います。KapWebのような生存率を計算できるソフトを広くオープンに活用できるようにすることは、いかに早期発見が重要であるかを一般の方々に知っていただき、がん検診等を受診していただくことが重要かを再確認いただけるかと思います。また、このような感染症拡大が、がん患者さんの予後や罹患数・死亡数にどう影響するかでは、長年続けている調査研究の重要性がわかるかと思います。

※診断日からある日数経過した生存者(がんサバイバー)を集計の起点(100%)とした生存率を計算して、がんサバイバー生存率としました。